



# ICHINOMIYA

Clip

千葉県一宮町の  
ライフスタイル紹介サイト

ブック版 Vol.03



<http://ichinomiya-iju.jp/>

千葉県長生郡一宮町役場 まちづくり推進課(直通)  
一宮町移住定住相談窓口

☎ 0475-42-2113

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮2457

# イチオーシー宮町

一宮町はどんなところ？

「海・暮らし・歴史」町の特長をまとめました！



## 海

おもいっきりサーフィンする！

レベルやスタイルに合わせて選べる  
表情のちがうサーフポイント！

年齢も国籍もさまざま… でも、みんな海が大好きです！

## 歴史

通りの奥に一步踏み込むと、そこには歴史が・・・  
玉前神社を中心に伝統と歴史残る町です

文豪 芥川龍之介 が夏を過ごした町  
大正3年と5年(1914, 1916年)の夏に一宮に滞在し、  
後の妻・塚本文にラブレターを書いたことが知られています。  
手紙は現在文学碑に刻まれ毎年碑前祭が行われています。

現在も続く酒醸家も 東浪見小学校も  
伝統を重んじ、未来へ繋げる  
そんな文化が根付いています

## くらし

町のお医者さんはしっかりあります！  
町内には、医院9施設、歯科医院7施設 があります

少人数だけど元気いっぱい！小学校  
「お誕生日会を開いたら、クラスの全員が集まっちゃった！」  
「カブトムシを捕まえたり、海で貝拾いをしたり、毎日が冒険！」  
子供たちの笑顔がキラキラ

朝がちょっと早くても楽々通勤のワケは  
JR上総一ノ宮駅は、通勤快速始発の駅です

日用品のお買い物は商店街やスーパーマーケット  
衣類や雑貨は海岸通りでトレンドを逃さない！  
産直所の新鮮野菜が当たり前

車でお買い物定番だから、重たい荷物も気にならない

## この町のこの人



一宮町に暮らす方々にインタビュー！  
町の魅力や暮らしのこだわり、困ったことや気が付いたこと  
など、さまざまな角度から質問してきました！

- Vol.01 ほんとにいいことばかり！  
のびのびチャロと一緒に景色を楽しみお散歩しています！
- Vol.02 一宮の自然を見つめて30年余り、毎日新しい発見の連続  
研究からアートへ夢フィールドは広がります
- Vol.03 田んぼの中のコーヒー豆屋さん  
アロハのところで商売も繁盛！
- Vol.04 サラリーマンから農家に  
無農薬栽培の田んぼと畑で土と遊んでいます
- Vol.05 仲間といっしょに子育てサークル  
今しかない“ママライブ”を楽しんでいます
- Vol.06 “サーフィンが好き”理由はそれだけ  
好きなサーフポイントの近くに暮らし家族のびのびです！
- Vol.07 アトリエ付きの家で創作に没頭 目的をもって暮らすから  
田舎くらしは充実するのです
- Vol.08 海風を感じながらゆっくり、のんびりリラックス  
気分はハワイアン！
- Vol.09 夢かなって海の見えるカフェバー経営  
最高のローカルスタイルを楽しんでいます
- Vol.10 定年までの8年間 東京への電車通勤  
座って寝て行けて最高でした！ここはいい！
- Vol.11 豊かな自然が子どもの心を育みます  
悠々自適のちょうどいい田舎暮らし
- Vol.12 知識と経験で地元農業を引っ張る若手農家は  
レゲエDJマンでもある
- Vol.13 グラチャン プロサーファーは  
生まれも育ちも 生粋の一宮っ子
- Vol.14 サーフィンと音楽と友達と  
それだけで充分 シンプルライフ
- Vol.15 里山の自然と人びとの温もりに  
心癒されています
- Vol.16 アートにも子どもたちにもいいことばかり！  
九十九里からは はなれられません。



アトリエ付きの家で  
創作に没頭  
目的をもって暮すから  
田舎暮らしは  
充実するのです



Published : 2011.12.15

お名前：可世木 博親さん 71才 画家  
可世木 知子さん 69才 主婦  
一宮町人：1999年～  
先住地：東京都杉並区西荻窪

## 移住する前はどちらに？

**可世木さん**：東京の西荻窪の社宅に居ました。移住して来たのは1999年、12年前ですね。定年の1年前に来ました。

## 東京への通勤生活もしていたのですか？

**可世木さん**：1年間通いましたよ。会社が京葉線で東京駅の改札を降りてすぐのところでしたから、上総一ノ宮駅からの始発に乗れば座って行けるのでさほど辛くはなかったですね。

会社は二重橋の正面だったから、別世界を毎日行ったり来たりしているようでした。一宮の駅に降りるとなんだかほっとしますね。何かいいですね、ああいう駅舎は。駅前も昭和30年代くらいの雰囲気がかもし出していて、とても気に入っています。

## 移住された目的と選んだ理由は？

**知子さん**：主人がアトリエを持ちたくて。それが1番の目的です。西荻辺りはすごく土地が高いでしょ。とてもアトリエ付きの家なんて建てられない。

**可世木さん**：かといって東京と全く無縁の所に行くのも嫌だし。ちよくちよく行けるような所ということで考えるとここ一宮までが限度ですね。たまには東京へ行って文化的なものに触れていたいじゃないです

か。月に1～2度は今も行くかな。

**知子さん**：海もあるし、里山もあるし、その割に土地も東京に比べれば桁違いに安いしね。その上、東京まで行こうと思えば行けるし。ただ電車賃がもう少し安いといいのですけど。



## 住んでみた感想は？

**知子さん**：こちらに来てほんとに良かったなと思います。主人も持病を持っているので旅行とかには行けないのですが、すぐそこで桜は見られるし、紅葉もあるし、海もある。東京にいた時は自然の景色を見に行きたいと思いましたが、ここにいるとわざわざ行ってまでとは思わないですね。むしろ東京へ行って美術館など見たりした方がいかなかったと思います。

でも、東京にはもう住みたいとは思いませんね。こちらの方がずっといいです。畑も借りてやっており、夏は日中が暑くて行けないので朝4：30頃から出かけています。

## 移住されて 絵画の制作の方はいかがですか？

**可世木さん**：移住する前から絵は描いていましたし、いくつかの美術展にも出品していましたが、やはり専念というか没頭できる時間と場所が出来たことで作品の質も上がったし、大きな絵が描けるようになりました。

制作の合間によく近くの山や田んぼを散歩するのですが、気分転換というかそういう時間が大事なかもしれませんね。私が描いているのは抽象画なのですが、自然に囲まれた里山の何千年、何万年の過去を持つ“土”と、刹那に通り過ぎる“風”を感じ取りながら作品の制作を進めています。

こちらに来てやっと手に入れたアトリエも今になって思うと小さ過ぎたなあ、と。10畳くらいしかないんで、200cm四方の絵だとアトリエから出せなくなってしまう。結局、最後の大きいキャンバスでの作業は外のテラスで描いています(笑)。それもまた気持ちがいいのですが。



## 奥様も県展で入選したとか？

知子さん：織物のタペストリで入選させていただきました。織物もこちらに来てから、すぐ近くに織を教えてくれる先生がいらしたので。それが結構面白くて。こういうテールセンターとか、服とか実用にもなりません。織はまだ6年目くらいです。

## これからの町に望むことは？

可世木さん：生命保険会社の研究所で定年を迎えました。そこでは、高齢者問題を扱っていて、実際に世田谷の町づくりを手伝ったりしていました。その時の気持ちがまだ残っているからかな。AWI(エリア・ウォッチ研究所)という研究所を仲間とたちあげました。今、40年後の一宮を考えてみようと言うことで、人口問題を調べて計算してみたら65才以上の高齢者が43%になる。まさに超超高齢社会です。駅から128号線のこの辺りに金融機関もあり、駅、役場、学校、医療機関とほとんどが集中している。だからこの駅から1キロ四方をバリアフリーにして、歩いて回れる街にしようという提案をしています。

高齢者マーケットというのもあると思う。巣鴨のとげ抜き地藏尊がいい例で、昭和30年代の雰囲気だからお年寄りも居心地が良いのでしょう。年寄り向けの衣料品やなつかしい食べ物がいっぱいあり、リピーターも多い。そこら中に椅子がおいてある

。巣鴨信金にも話を聞きに行ったことがありますが、あそこはバブルがはじけても売り上げが落ちなかった。年寄りの客が多かったから。だからもう少し時代の流れに沿って高齢者向けにしてゆけば町の景気も良くなると思いますね。年寄りはお金を持っていても使い道がないとか、使いたいけど欲しい物が売ってないって言います。そこに駅前や近辺の商店街が復活できる可能性があるのではと思いますよ。

また、歴史的にも玉前神社の門前町ですから、駅から続く参道の整備が必要だと思いますね。赤い毛せんを敷いた縁台でお茶が飲めるとか。元々、国道からの参道の入り口に鳥居があったのに、車の通行に邪魔だという理由で撤去されてしまった。利便性のために文化的なものを排除してしまう。文明を求めて文化を捨てるのは、もったいないですよ。

知子さん：最近、玉前神社もパワースポットって言われてるでしょ。私も易をやっているのでお水取りにいろんなところに行くのですが、その場所で必ず30分位時を過ごしてこなければいけないのですが、ここは過ごす場所もないのです。

可世木さん：パワースポットで国道まで行列が並んでいるそうだから、そういうのは活かさないとね。それともう一つは駅から海岸へ抜ける通りに街路樹を整備する。玉前神社から駅、駅から海岸と一宮の顔ができるじゃないですか。そんな町にしたいですね。

## これから移住を考えている方へ

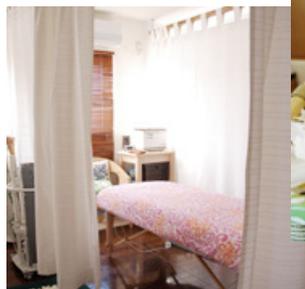
可世木さん：こういうところの価値を知って、何をしたいって決めて来ないと、ただのんびりしたいとか漠然と来てもギャップが出てきますね。海だっけのんびり見ているだけじゃすぐ飽きちゃうし。そこで何をやるかでしょう。

知子さん：それがないと来ても良さを分かって楽しく暮らせないかもしれませんね。趣味みたいなものを持っていらっしやれば、解け合って、地元の方と何かできるかもしれないし。





海風を感じながら  
ゆっくり、のんびり  
リラックス  
気分はハワイアン!



Published : 2012.1.26

お名前：三田 昌代さん 38才  
 ハワイアンヒーリングサロン ハレカイ経営  
 一宮町人：2009年～  
 先住地：東京都世田谷区

## 住の経緯は？

ずっと東京でインターネット関係の会社員だったのですが、週末はこの辺りの海にサーフィンに来ていました。時々、湘南や茨城にも行きましたけど、やはりこの辺の雰囲気が好きでした。

会社は残業も多く、20代はほとんど会社にいたような感じです。それだからこそ年に2回は休暇を絶対取ってハワイに行ったりしていました。最後の方に作っていたのがサーフィンのサイトで、いろいろな方にインタビューしたりして、より海が大好きになりましたね。

そんな時、湘南に住んでいる友人に「そんなに海が好きなのに、なぜ海の近くに住まないの？」と言われて。

自分の生活を見つめ直した時に、よく外食に行ったりしていたので、例えば湘南に住むとなると、夜10時半位に出ないと帰れない。結局実家に泊るとか、中途半端になってしまうのでダメだとあきらめていたのです。その逆に、海が近いと一日を有効に使えるとか。今までは往復4時間くらいかけて通っていたのが、その時間が要らなくなる。朝海に入ってビールを飲んでもまだ午前中なんだよ、と。

そんな話をいろいろ聞いていたら、自分の中で我慢していた感情や、これだからダメって制限していた感情が、そういう新しい世界もちょっといいかも、って思いはじめてしまって。それが金曜日のことで、翌週の月曜日には「そろそろ海のそばに住みた

いので辞めます」という感じで会社を辞めることにしました。人生一回だけなので。2007年(4年前)のことです。

## 会社を辞めた後は？

その時は何も考えてなかったのですが、いつも一緒にハワイに行っている友人に話したら、じゃハワイに卒業旅行に行こうと。海の方に住むのだったら何か手に職を持ったほうがいいと思って、前から習ってみたいと思っていた「ロミロミマッサージ」というハワイのマッサージを習うために2カ月ほどハワイに行っていました。

ハワイに行って帰って来てから、すぐでも一宮に住みたかったのですが、湘南よりも人が少ないし、冬は果たしてお客さんが来るのかな？大丈夫なのかな？という心配もありました。湘南の方が実家からも近いし。

でも、会社を辞めるという大きな決断をしたのに実家から近い湘南に住むのはあまり変化がないなあと思い、これまでいっぱいお世話になっていたところ、一宮に住もうと心に決めました。

一宮は東京にも近いですし、移住者も多いし、通り沿いにどんどんお店が出来たりしていたので、少し都会っぽい。ということは、同じような感覚や価値観で来ている人がいっぱいいるということだから住みやすいだろうと。

## そしてすぐに一宮町に？

いいえ、すぐには移住できませんでした。基礎コースを一度受けた位ですぐに仕事としてやっていけるものではないので、また半年後にハワイに戻ってアドバンスド・コースを受けたり、何度か行き来して習いました。やはりお客様にお金をいただくので、プロになるには数年かかりますよね。そして、ロミロミの知り合いの人が東京にお店を出すのを手伝いながら経験を重んじたり。いずれ自分のお店を持つと決めていたので、赤字でもいいから練習のつもりで、世田谷に部屋を借りて1年半ほど実地訓練を兼ねた営業をはじめました。



## お店のオープンとは？

お店のオープンは2009年9月ですね。会社を辞めてから2年が経っていました。移住と同時にお店もオープンしたので、ちょっとそこが大変でしたね。

荷物も片づかないまま、引っ越して2週間位で。お店に置いてある商品もお友達から仕入れているので、納品がてら泊まりがけで手伝いに来てくれたり。合宿みたいな感じで、彼女達のお陰でようやく開店にこぎつけたました。

## 住んで、お店をはじめて2年が経ちましたが？

ほぼ知り合いがいらないような状態で来たのですが、お客さんとも仲良くなれたし。こちらに来てやりたかったことがヨガとフラダンスで、太東で教えているヨガの先生ともBlogでつながって習うようになり、フラやタヒチアンダンスも近くで習って、そこでよいお友達がたくさんできました。その方達と去年(2011年)、ハレカイマーケットというフリーマーケットやネイル、チョークアートレッスンなど、みんなとコラボしてここでイベントしちゃいました。それをきっかけにして少しずつ認知されてきたかなと思います。

いろいろなイベントへのお誘いもあり、ツイッターとかフェイスブックで情報交換しています。会うのが2度目でもツイッターで話しているので旧知の仲みたいに感じられたり。そういう意味ではつながりやすくなってますよね。知らないうちに輪が広がりました。まあ、なんとか、楽しく、のんびりやっています。

## 毎日の過ごし方やお買い物は？

夏バージョンですと、朝早く起きて、海も

近いのに携帯で波チェックして(有料の波情報サイトがあるので)、家からウェット着てボード抱えて歩いて海に行き、帰ってお風呂に入って、ご飯食べて、お仕事ですね。日が長い時は、夕方にまた海に入ったりして。土日は入れませんが、それはそれでOKです。平日の方が空いていてやりやすいですから。

海に入っている時、夕日が綺麗で、空がピンク色に染まって、そういう瞬間が幸せですね。贅沢です。

でも、ずっと東京に暮らしていたのでたまには遊びたくなる。そういう時は実家に泊って、向こうの友達と会って会食したり。都会の刺激も好きなので時々は。

食料品などは普通に町のスーパーに。直売所が好きで、ブロッコリーとかお野菜が安くて美味しいですよ。最近、友人から宅配サービスを紹介されて、特に夏の忙しい時は宅配も利用してます。洋服は実家に帰った時に東京で。あまりこの辺りでは売ってないし。あとはネットで買ってます。年末年始のセールとか結構利用しましたね。



## これからやってみたいことは？

そうですね、ハレカイマーケットのような人が集えるイベントをもっとやっていきたいし、ハワイの文化やお話とかを伝える場や機会も作っていったらなと思っています。今年の目標ですが、ホノルル・マラソンに出たいと思っていて。その練習も兼ねて、一宮界限を自分の足で歩いたり走ったりしていきたいですね。



## 移住を考えている方に

サーフィンする人にはこの上なく良い環境ですからね、ここは。東京まで通っている方もいらっしゃると思いますが、それもアリかなと思います。一宮の周りのいすみ市や陸沢町もすごくいい町で面白い人達が移住してきてますし、ちょっと足を伸ばせばいろいろな所に行ける。野菜も安くておいしいから食費もかからないし。東京ではなかった近所付き合いもあるので、そういうところもいい点だと思いますね。土地も広いし、家賃も安いので、みんなお庭で何かしら栽培して食べていたり、都会で出来ないことができますから。心が豊かになると思いますよ。



vol. 09

海のちかくで

冬かなくて  
海の見えろ  
カフェー経営  
最高の  
ローカルスタイルを  
楽しんでいます

vol. 10

日本暮らしを愛した

北米までの8年間  
家族への電車通勤  
を止めて行って  
最高でした！  
ここはいいね！

vol. 11

子育て世代

豊かな自然が  
子どもに心を  
奪います  
毎日の通学  
ちやうどいい田舎暮らし

vol. 12

農家

知識と経験で  
地元農産物に情を  
注ぎ農家は  
レゾエジマン  
でもある

vol. 13

アメリカン  
プロセッサー  
は  
生まれも育ちも  
生時の  
一家の子

サーフィンライフ

vol. 14

サーフィンライフ

サーフィンは  
仕事に化蓮は  
それだけで充分  
シンプルライフ

vol. 15

自然から学ぶ

里山の自然と  
人がどのくらい  
心奪われていくか



アートにも  
子どもたちにも  
いいことばかり！  
九十九里からは  
はなれられません。



Published : 2014.03.11

お名前：こまちだ たまお さん  
美術家、美術教室主催・講師  
一宮町人：1971年生まれ～

## 生まれも育ちも一宮なんですね。

はい、大学は東京で東京芸術大学に行っていたんですが、一宮に戻った理由は海のそばで過ごしたかったこと、自然の環境の中で作品を作りたいかったんです。学生時代からずっと美術教育に携わる仕事をしていて、自分の教室を開いて仕事をしていきたくったんですが、それにあたってはやっぱり自然のあるところ、海のあるところ、土のあるところで、アートと子どもたちが関わりあえること。それが作品にも子どもたちの心にも影響が大きいと思っていたんです。自然といっても日本中いろんなところがありますが、九十九里浜が好きなんです。生まれ故郷だからといったらそれまでも知れませんが、やっぱり心の拠り所だったのは確かです。大学進学の際、もうここには戻ってこないだろうなと思って出ていったわりに、むこうで作品を作りながら生活していると、時々海が見たくなるんですね。だから曾祖母が住んでいた古い家をアトリエ代わりにして卒業制作を行うという名目を作っておいて、時間があれば帰ってきて海を見に行っていました(笑)。

## やっぱり九十九里の海は他とは違いますか？

ええ、まずあの広さ。どこに行ってもあの広さって他にはちょっとないですよ。アート作品を作るっていうのは唯一無二の自分を表現するっていうことでもあるんで

すけど、それと同時に自然の中に身を置くことで、矛盾かもしれないけれど逆にちっぽけな自分も見つけることができる活動だと思うんです。自然の大きさを感じて相対的に自分を認識するというか。大きな空間の中での自分と、ここにしかない自分とがあると思うんですが、その大きな空間の中にある自分を認める場所っていうのは私にとっては九十九里だったんだと思っています。

## 一宮で開かれているアート教室では主にどんな活動を？

ここでは子どもたちだけでなくお年を召した方まで様々な方に、自然に触れながらアートの楽しさを伝えていこうとしています。教室は町役場にも近い比較的市街地にあるんですけど、素材自体には木を使ったりして、自然からは離れないように考えています。昨年などは藍染の藍を育ててそれを使った染物もしました。素材から全て自分で作っていくことで、自然の一部からアートとして完成するまでの繋がりを感じてもらえたと思っています。

あとは、アート合宿も行っています。これまでは海に出かけて行って、砂浜に穴を掘って、石膏を流し込んで彫刻を作ったりなどをして、自然のなかでの造形活動をしています。なるべく自然物で手を汚すというか、感覚をフルに使うカリキュラムは織り込んでいます。

## 自然に触れられる環境が整っているということですね。

それはもう。私自身がそういう中で育っていますから。

私が子どものころにはこのあたりも一帯が林だったので、友達と遊びに行ったらスカンポ(イタドリ)っていう植物や桑の実を採って食べたり、椎の実を採ったらみんなで炒って食べたり、おやつは現地調達していました(笑)。遊びもザリガニ釣りなんかをよくしましたね。

今はずいぶん宅地になっていますが、少し山の方まで行けばまだまだそんな環境が残っているのも魅力だと思います。宅地が増えたということは人も増えてきたということですから、そのぶん人が住みやすい場所になっています。ただ元来の自然っていうものは、保持しようという努力がなければ残っていけないものにはなっているんでしょね。そこには人の意志が必要。新しくこの町に住みたいと思ってくれる方はこの自然に魅力を感じてくれる方だと思うんです。だから地元の人と一緒にあって、自然を大切に考えてくれる方が増えてくれることには期待しています。



## 教室が休みの時には何を？

城西国際大学さんの生涯教育センターで絵画等の講師をもう12年くらい続けていますね。あとは長生健康福祉センターさんでのデイケアのお仕事や、香取市のコスモスの花さんというNPOで美術造形教室を開かせていただいたりと、教室以外でもいろいろやっているんです。あとはバタバタと動き回りながら絵を描いて、個展を開いたりもしています。

その合間を縫っては海に出かけて、作品に使う貝を集めたりもしますよ。長くて広い九十九里の海岸も、ところどころで生態系が違ふんです。だから場所を変えたら採れる貝殻やサンゴのかけらも変わって、いろいろなインスピレーションを与えてくれる。実はあまり知られていない秘密の海岸もあるんですよ。森の中も同じで、自然の中の一つひとつが何かしらを教えてくれる。都心では一念発起しないと近づけないような環境もここだとすぐそこにあるんです。

## 一宮での美術教室はどんな意味があると思いますか？

これはこの町に限った話ではないですけど、学校では徐々に美術教育自体が少なくなっていく傾向にあります。実際に子どもたちがアートに触れる時間は確実に減っていますが、実はそれって“心”を形作る時間が削られているのに等しいことかも知れません。実際に感じる場所では最近はずいぶん子どもたちがなんだかイガイガしているように思います。受験のための勉強をする時間は増えたかも知れませんが、それだけでいいのかなって。アートだけじゃなく自然に触れることも“心”を作るための大切な時間。それはいろんな物事に対する考え方や人が生きていく上でとっても大切なことを教えてくれるはず。一宮で美術教室を続けていく中で、私は子どもたちに自然の中で感じることを大切にする“心”を育てていきたいと考えています。

## 一宮をヒトコトでいうと？

小ぢんまりとしたいい町です。程よくお江戸(笑)にも近いですし。快速をつかえば東京駅まで80分になりましたから、都内へ通勤する方にもいいと思います。一日の中で一宮と東京とを往復すると環境の違

いが大きいと思われるかもしれませんが、それを楽しんでいる方も多くいらっしゃいます。実際にはここも「どっぷり大自然につかる」というほどの田舎ではないと思いますし。なにもかもがちょうどいい。たとえば都内で行われている展覧会を見に行きたいと思ったら、ちょっと時間確保すれば行くことができる距離っていうのはありがたいなと感じています。

## これから一宮への移住を考えている方へのメッセージを

一宮は歴史のある町で、いろいろな発見があると思います。都心から引っ越してこられたら、たぶん同じような状況の方と一緒に居心地のよい部分があるという気持ちもとっても理解できます。

でもここに住みたいと思った最初の気持ちは大切にしてもらって、そのためにも地域の方々とのコミュニケーションを図っていただけたらと思います。一宮の人々は明るい方が多いですし、すぐにとけ込むこともできると思いますよ。

## お問い合わせ

一宮町役場 まちづくり推進課 ☎ 0475-42-2113 受付：9:00 - 17:00 (休日：土日祝)

当サイトの運営／管理、移住定住相談窓口です。  
移住に関するご相談はお気軽にお問い合わせください。

一宮町役場 産業観光課 ☎ 0475-42-1427 受付：9:00 - 17:00 (休日：土日祝)

町内ではたくさんの観光イベントを開催しています。  
観光イベントなどについてはこちらまでお問い合わせください。  
また農業や商工業についてもこちらまで。

一宮町役場 教育委員会 ☎ 0475-42-4576 受付：9:00 - 17:00 (休日：土日祝)

一宮町には町立小学校が2つ、町立中学校が1つあります。  
町内の教育のことについては、こちらまでお問い合わせください。

# イベントカレンダー

伝統行事、サーフィン大会、フリーマーケットなど  
地域密着型の情報満載！  
一宮町はいつも元気いっぱいです！

## 2013年イベント実績

01月27日	大寒禊行	08月03日	一宮町納涼花火大会
02月22日	一宮いっちゃんバスデーパーティー	08月04日	サンライズマーケット 観光地曳き網
03月30日	花見の宴	08月11日	サンライズマーケット
04月13日	上総伝統郷土芸能競演会	08月13日	観光地曳き網
04月14日	上総伝統郷土芸能競演会 上総酒祭り	08月16日	一宮川燈籠流し
04月28日	第11回さずが市	08月18日	サンライズマーケット
04月29日	御田植祭	08月25日	サンライズマーケット
05月03日	ハレカイマーケット ネイチャークラブ田植え	09月08日	上総国一宮まつり
05月24日	全日本級別サーフィン選手権大会	09月10日	上総十二社祭り(稚児行列・鶴羽神社御迎祭)
05月25日	全日本級別サーフィン選手権大会	09月12日	上総十二社祭り(例祭宵宮祭)
05月26日	全日本級別サーフィン選手権大会	09月13日	上総十二社祭り(例祭・南宮神社大祭)
05月30日	QUIKSILVER OPEN JAPAN 2013	10月20日	渚のファーマーズマーケット 一宮海岸クリーンアップウオーキング
05月31日	QUIKSILVER OPEN JAPAN 2013	10月27日	上総国さずが市
06月01日	QUIKSILVER OPEN JAPAN 2013	11月01日	氏子太々祭
06月02日	QUIKSILVER OPEN JAPAN 2013	11月02日	一宮町総合文化祭
06月23日	玉之浦禊行	11月03日	一宮町総合文化祭 一宮町農林商工祭
07月13日	海開き2013 ～南九十九里はまぐり祭り in 一宮海岸～	11月09日	2013いっぽイベント 一宮学園で映画を観よう！ 城西国際大学公開講座 ～いざという時に備えて!～第1回
07月14日	渚のファーマーズマーケット 宮薙あんどん行灯まつり	11月30日	城西国際大学公開講座 ～いざという時に備えて!～第2回
07月15日	宮薙あんどん行灯まつり		
07月20日	サーフジャムフェスティバル		
07月21日	サンライズマーケット 第5回いいもんうまいもん市		
07月24日	玉前雅楽会 月見の宴		
07月28日	サンライズマーケット 観光地曳き網		

最新イベント情報は  
一宮町観光協会のホームページを  
ご覧ください

<http://www.ichinomiya.org/>



---

<http://ichinomiya-iju.jp/>

千葉県長生郡一宮町役場 まちづくり推進課(直通)  
一宮町移住定住相談窓口

☎ **0475-42-2113**

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮2457